

作庭塾庭守講習会 「二松庵」流れ発掘・復元講習会

横浜マイスター 大胡 周二郎

今年も旧川合玉堂別邸「二松庵」を会場にお借りして、二月十九日(日)と二十六日(日)の二日間、流れの復元をする講習会を行いました。

今回は昨年行った、「池泉護岸石積み講習会」の続きの、池から竹林に至るまでの部分を復元することとしました。

現状は、ここ数年手が入らず、セキシヨウに被われ、緑石も土砂に埋まりかけて

いましたが、それらを掘り上げ、流れの模様を確認しつつ作業を進めました。中央付近にある湧水の井戸から上流には、新たに土留の縁石を場所に定めて付けました。下流は主に発掘を行い、崩れ落ちた部分の流れの縁を補うこととしました。井戸の周辺からは、埋まつていた前石・沢飛石や景石も掘り出され、昔の景観が現れました。

祖父の書き残したものに「流れ尻の竹林に接する辺りには、黒木の丸太橋を架け、橋の下の見えぬ所に落差を付け水音を聞かせた。山路を歩いて丸太橋に佇む人を見て喜んだのは作者で…(主人は)『この水音の構想はまことに宜しいが水音は少なくとも三色できれば五色くらいにして楽しむならば、一層最高だ。』と言われ、こ



井戸周辺の流れ



流れ護岸作業



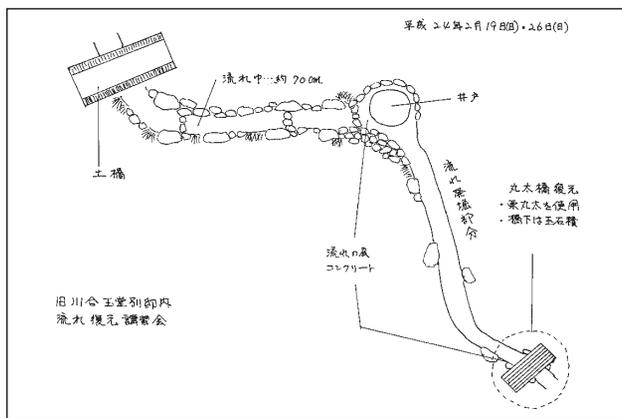
丸太橋完成



丸太橋削り作業



土橋苔復元



これは大いに勉強になった」との記述もあり、丸太橋を架けることにしました。しかしながら、開園日には多くの人が来園するため黒木では難しく、最大妥協して栗のなぐりを用地表面を歩きやすく、チョウナでなぐり平らめて使用しました。また、同様に栗丸太の手摺りを脇に取り付け、足を踏み外さないように考えました。橋の下の五色の水

音は、湧水が微量になった現在、昔のようには成りませんが、見た目の形だけ復元に近付けたのではないかと思っています。作業の中では、石を運ぶ際の肩で担ぐ二天張り・四天張り、台車での運び方、石を据える際のチェーンブロックの使い方、テコの使い方、地均しのジョレンの扱い等々、景色を作り上げる勉強の他にも、修得すべ

きことは沢山あり、繰り返し研鑽を重ねていただきたく考えます。特に最後の地均しは、石や植栽のチリ際は、なお念を入れて舐めたように仕上げる出来栄が数段上がるものです。井戸回りや山裾からは、水も湧き出して、作業が難航する場面もありましたが、受講者諸氏の熱心な取り組みで無事完成しました。結びになりましたが、講習会に参加頂いた延べ約五十名の方々、大変お疲れ様でした。ご協力頂いた神道協役員

の皆様、関係者の皆様、誠に有難うございました。今回も横浜市教育委員会、文化財課、並びに金沢区区政推進課の御厚意により、会場を使わせて頂きましたことに感謝申し上げます。二松庵に昔の景色が、一つよみがえりました。末永く大切にしていきたいと思

います。有難うございました。昨年十月からスタートして毎週土曜日十五日間の102時間をかけた講習会は、職業能力開発促進法に基づき、「より高度の技術を修得」し「その職業に必要な技能を補完」することを目的とされています。

造園技能士コースを終えて

望みます。諸先生方、事務局の方々の絶大なご指導、誠にありがとうございました。

2級受講生 戸羽拓也

とても勉強になりました。合格したことで自信がつかまりました。もっと造園のことを勉強して行きたいと思

受講生の声

1級受講生 野村直樹

1級受講生 原田俊二
還暦を迎えた私共が、造園技能士に挑戦すると周囲に話した所、何で今さらという反応が多く返ってきました。かねてより、支部の会などで聞いたことがない専門用語を耳にすることが多く、施工管理と技能士のの違いは何なのかという疑問がありましたので、一念発起講習に参加させていただきました。受講を通して教えていただいた知識を日常の業務に生かしつつ、若い技術者にアドバイスが出来るかと思っています。

2級受講生 林 兼由

2級受講生 栗山昌大
この四ヶ月間の講習会を通して、それぞれの先生方の豊富な知識や実際の経験を分かり易くそして楽しく講義していただき、あらためて造園という仕事の奥深さ、素晴らしさを気付かせていただいた事に感謝しております。

これから今回の講習会で得られたものを生かせるよう努力して行きたいと思

います。

昨年10月から2月まで、長いようで短い感じが致しました。私は脱サラして、観葉植物レンタルの仕事をしていますが、時々外木の揃手の仕方について聞かれる事が有りますが、わからず困った事が有りました。が、今回の研修で講師の先

生から、造園の技術の芸術性の奥深さ、また造園に対する姿勢、考え方など、体系的に学ぶ事ができ、感謝致しております。これから

の仕事に生かしていきます。各講師の先生方、お世話頂いた事務の方々、誠にありがとうございました。

まず感謝したいことは、講義内容がただ教科書を朗読するだけの勉強会ではなかったことです。造園を生業とする専門家を媒介することによって、教科書に掲載された無味乾燥な言葉が、生きた言葉へ変わり、知識に対する理解力をより一層深めることができました。それに伴い、今回の講義で得た知識を、体系づける為に私自身が常に「実践者」であるという、立場を保持していく必要性を感じました。最後に、講義内の余談話ではありましたが、ある講師の方の石の輪廻と自身の死生観の話聞いて、造園でもここまでぶつ

飛べるのかと思ひ、感激感動興奮で、体温が上昇したことを、鮮明に覚えています。各講師の先生方、事務の方々、誠にありがとうございました。

講習会



大野彰共同訓練委員会副委員長より神奈川県職業能力開発協会会長賞授与



修了式記念写真